

1 古代イギリスの服装について

山脇学園短大 渋谷 裕子

今日の近代市民服に及ぼした、イギリスの服装史の影響は実に大なるものがある。日本における西洋服装史の研究のほとんどが、未だ概論的な非常に大ざっぱなものにしかまとめられていないことは遺憾に思われる。

市民服と最も関係の深いイギリスの服装について、今回は古代をPlanché, J. R. の *History of British Costume* (1834), Fairholt, F. W. の *Costume in England* (1855) と Clinch, G. の *English Costume* (1909) の三著を中心に述べる。この三著はいずれも、非常に難かしい仕事ではあるが、実際の遺品、考古学的発掘品、当時の叙述を参考にして、非常に実証的な正確さをもっている。また、これらの叙述はそれ以後のイギリス古代の服装史の叙述に関する重要な参考文献となっていると見られる。この三著に古代のイギリスの社会的背景を考慮し、イギリスの古代の実際に在った服装を明らかにし、更に三著の叙述の根本史料を追求し、三著の見解の相違点をあげ考察する。